

共に生きるとは何か

難民の声・家族の歴史から考えた多様性

世界では故郷を追われる人が後を絶ちません。日本国内に暮らす多様な人々の中にも、命の危険から逃れ、難民とならざるをえなかった人々がいますが、難民認定の壁に突き当たっています。また、様々なルーツを持つ人々へのヘイトスピーチ、ヘイトクライムの問題も根深く残っています。現行制度では、その救済や防止等に限界があります。この社会で「共に生きるとは何か」ということを、取材で出会った人々の声、そして家族の歩んできた歴史も交えて考えていきます。

Yasuda Natsuki
安田菜津紀氏

1987年神奈川県生まれ。認定NPO法人Dialogue for People(ダイアログフォーピープル/D4P)フォトジャーナリスト。同団体の副代表。東南アジア、中東、アフリカ、日本国内で難民や貧困、災害の取材を進める。東日本大震災以降は陸前高田市を中心に、被災地を記録し続けている。

ホール会場
&
オンライン配信

2025
11月22日 土

14:30 開場
15:00 講演
17:00 終了予定

**福岡県弁護士会館
2F大ホール (100名)**

福岡市中央区六本松4-2-5

地下鉄: 地下鉄七隈線六本松駅より徒歩約3分

西鉄バス: 「六本松」バス停より徒歩約3分

・弁護士会館・裁判所の駐車場は利用できません。お車でお越しの方は近隣の駐車場をご利用下さい。



オンライン参加



左記の二次元バーコードからお申し込みください
<https://x.gd/hi4WR>

会場参加

会場参加は申込不要